

HOME > MAGAZINE > REVIEW > 異なるもの同士の出会いから、人間の知覚と思考を再考する...

REVIEW - 2018.6.24

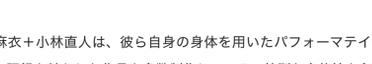
# 異なるもの同士の出会いから、人間の知覚と思考を再考する。服部浩之が見た、山下麻衣+小林直人「自然観察」

2001年からユニットでの活動を行う山下麻衣+小林直人。本展では、自然を人の対義語としてとらえるのではなく、人も宇宙も自然の一部として解釈したいという新作の映像作品4点を展示した。「自然観察」と題された本展を、キュレーター服部浩之が論じる。

文=服部浩之



山下麻衣+小林直人 海の声を山に聞かせる 2017 2チャンネル・ビデオ 6分12秒 © Mai Yamashita + Naoto Kobayashi Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art



## 山下麻衣+小林直人「自然観察」展 観察という態度について 服部浩之 評

山下麻衣+小林直人は、彼ら自身の身体を用いたパフォーマンス的な行為と、その記録を軸とした作品を多数制作している。特別な身体性を必要としない簡素な行為がなり、ときにそれは膨大な時人が実践することはない少々馬鹿げていると思われるようなことを、淡々と生真面目に実践することで、その過程に生じる笑いやユーモアを大切に、人間存在の根源的な意味や、人間と自然の関わりを改めて考えさせるものが多い。

本展は「自然観察」と題し、4点の映像作品をインスタレーションとして構成する。

山下と小林は、これまでアマゾン川とナイル川を自ら川下りするプロジェクト《Going Mainstream / メインストリームを行く》(2010) など、人間に対して大きな存在としての自然を彼ら自身の身体を通じて眺め、察することを試みてきた。また、通常は決して出合うことや接続を考慮することのない対極に位置すると考えられる現象と、彼らの身体や行為を通じて結び付ける。アマゾン川とナイル川は同じ海へとつながっているが、人間の身体感覚としてそれを実感することは不可能であり、遠く離れた無関係なものとするのが普通だろう。そのようなものの出会いを試みるダイナミックな発想には、爽快感さえ感じる。

本展では、海と山という人が対比的に扱うことが多い2つの状況の出会いを試みた。山を登る人の視点からとらえた美しく臨場感のある山の風景を眺めると、鑑賞者は間もなくある違和感を感じる。視覚情報と聴覚情報に不思議なずれが生じているのだ。山を登る人のたてる音や鳥の鳴き声、木々のさえずりに加えて、通常聞こえないはずの海の波の音が響いている。まことに奇妙な音の重なりだ。《海の声を山に聞かせる》(2017) というタイトルのとおり、作家が海で録音した音をスピーカーから流しながら山を登っているのだ。木々やキノコなどがアップで映し出されると、それらが海の音に聴き入っているようにさえ見えてくる。しかし、これは極めて人間側からとらえた見方、感じ方だろう。実際、山の風景は人の移動や視座に応じたかたちで映し出され、海の音と山の出会いは人間が媒介することで実現されている。ある意味人間中心主義的ともいえる状況を生み出すことで、改めて人間の存在や知覚について思考することを促す。



山下麻衣+小林直人 積み石 2018 ヴィデオ 4分38秒 © Mai Yamashita + Naoto Kobayashi Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

他方、作家たちと愛犬が石か木片のように折り重なって静かに佇む様子をとらえた映像《積み石》(2018)は、作家自身が言及するように「もの派」の態度を想起させるものがある。山下+小林のほとんどすべての作品に共通するのは、「見ること」、つまり観察を重要視すること、そして「つくること」を意図的に注意深く回避し創造する態度で、もの派の態度をある部分で引き継ぐと言ってよいだろう。さらに、普通の身体によるパフォーマンスの要素が重ねられることや、行為とその記録が重要な意味を成すことなども合わせて考えると、反芸術的なあり方への意識も伺うことができる。表現媒体に対する現代的感覚も強く、《積み石》は16:9のモニターを用いながら正方形の画角で映像を切り取っている。その意図は、カメラの視界で自然を切り取ったほかの作品と差別化を図ることだけではないだろう。正方形という形式は、無対象を唱えたマレーヴィチの「黒の正方形」や、近年のInstagramなどの画像まで、多様なイメージを連想させる。山下と小林がモニターを用いながらもあえて正方形という画角を選択した理由を明確に看取することはできなかったが、ある複雑さを生み出し、鑑賞者に注意深い観察を促すことには成功しているだろう。この作品をよく見ると、映像に登場する切り株が同じ配置でモニターの前に設置されており、映像内外で入れ子構造がつけられるなど、ものとの関係を攪乱させつつ、それを思考させる。

ここで改めて、展覧会タイトル「自然観察」について考えてみたい。別室には、星空を撮影し、北極星が映る数ピクセルのみを拡大した《北極星》(2018)がある。たしかに北極星という自然をとらえたものだが、その映像空間は抽象的な光のスペクトラムで満たされ、人工的に生み出された場という感覚が強い。本展で提示されたすべての作品がなんらかのかたちで「自然」を対象としているが、それに対する「観察」という態度は、じつは自然を知覚し思考する人間からの一方的なまなざしの表れでもある。それは、そもそも「art (アート)」という言葉がはらむ元来の意味である「自然の模倣」「人工」「技術」など、人間と創造の関係とそこに横たわる問題を、批評的に観察することを促すものと言えるだろう。



山下麻衣+小林直人 北極星 2018 ヴィデオ 20分 © Mai Yamashita + Naoto Kobayashi Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

## Profile

はっとり・ひろゆき

インディペンデント・キュレーター。1978年愛知県生まれ。2006年早稲田大学大学院修了（建築学）。09〜16年青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC] 学芸員。アジア圏を中心に、展覧会やプロジェクト、リサーチ活動を展開する。

## Information

山下麻衣+小林直人「自然観察」

会期：2018年5月12日〜6月23日（終了）  
会場：Takuro Someya Contemporary Art  
住所：東京都港区南麻布 3-9-11 バイコンコーストハイツ 1F  
電話番号：03-6804-3018

山下麻衣（1976年千葉県生まれ）と小林直人（1974年千葉県生まれ）は高校時代に出会い、2001年からユニットによる活動を開始。主な展覧会に、11年クストフェライン・ゲッティンゲン（ドイツ）、15年小山市立車屋美術館（栃木）での個展のほか、10年「あいちトリエンナーレ2010」、15年水戸芸術館（茨城）、18年ポンビドゥーセンター・マラガ（スペイン）などでのグループ展や芸術祭に参加。本展では、近年の山下+小林のアニミズムの観点を色濃く表した新作4点を発表した。

編集部

## あわせて読みたい

- 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ、日本館代表作家は下道基行、安野... NEWS / HEADLINE 2018.6.7
- 2つの個展からドローイングの可能性を考える。服部浩之が見た、「...」 REVIEW 2018.5.31
- 町工場との出会いから、ものの価値を問う直す。服部浩之が見た、青... REVIEW 2018.4.27

## 関連リンク

▶ 山下麻衣+小林直人「自然観察」

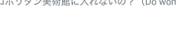
#服部浩之 #Takuro Someya Contemporary Art

REVIEW - 2023.4.5

# 渋谷PARCOから見えざる「日本社会の半分」を表象する。小森真樹評「ゲリラ・ガールズ展」

3月8日の国際女性デーに合わせ、渋谷PARCOで行われた「ゲリラ・ガールズ展」。渋谷のセレクトブティック「Sister」が倉敷芸術科学大学・川上幸之研究室協力のもとで開催した同展の意義を、武蔵大学准教授・ミュージアム研究者の小森真樹が振り返る。

文=小森真樹



会場外観には「女性は裸にならなとメトロポリタン美術館に入れないの? (Do women have to be naked to get into the Met. Museum?)」(1989)が展示された。



続きを読む



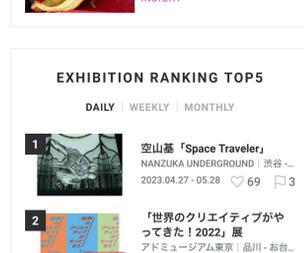
**BIG ART AWARD**  
SERIES  
リクルートが選ぶ アートの新地平  
第1回 菊地敦己 × 保坂健二郎  
第2回 石原海 × たかくらかずき  
第3回 吉田志穂 × 藤倉麻子



さばかれぬ私へ  
竹内公太 志賀理江子  
Waiting for the Wind  
TAKEUCHI Kota SHIGA Lieko  
2023.3.18 - 6.18  
東京都現代美術館 企画展第3号  
Museum of Contemporary Art Tokyo Exhibition 3rd  
T C A A  
Tokyo Contemporary Art Award  
2021-2023  
Tokyo Contemporary Art Award  
Tokyo Contemporary Art Award  
代表・甲斐義和が見る「アートとしてのセル画」



なせいま「セル画」なの。  
セル画のNFTマーケットプレイス「兼座」代表・甲斐義和が見る「アートとしてのセル画」



アート・クリエイティブ業界に特化した求人メディア  
**Job**  
by 美術手帖  
お仕事をさがす > 求人を募集する >

MAGAZINE RANKING TOP5  
DAILY | WEEKLY | MONTHLY | PREMIUM  
1 『NEZUCAFE』から「HARIO CAFE」まで。都内で行くべ... INSIGHT  
2 空山基、アレックス・ダ・コルデから六本木アートナイト... NEWS  
3 若冲を見出した先見性。80年におよぶ蒐集の歴史から見る... NEWS  
4 いくつ行ったことある? 一般入場ができる大学美術館・博... INSIGHT  
5 映画「メットガラ」に見る政治的選択。ファッションとア... INSIGHT

EXHIBITION RANKING TOP5  
DAILY | WEEKLY | MONTHLY  
1 空山基 『Space Traveler』 NANZUKA UNDERGROUND | 渋谷... 2023.04.27 - 05.28 | 69 | 3  
2 「世界のクリエイティブがやってきた! 2022」展 アドミュージアム東京 | 品川・お台... 2023.02.11 - 05.06 | 78 | 5  
3 マティス展 東京都美術館 企画展示室 | 上野... 2023.04.27 - 0... | 238 | 12  
4 みよじなまえ「パベルとコートピア」 スパイラルガーデン | 渋谷・表参道... 2023.05.10 - 05.25 | 15  
5 嶋田美子展「おまえが決めるな!」 オオタフインアーツ | 恵比寿... 2023.04.15 - 06.10 | 39 | 4



美術手帖  
「ブラックアート」とは何か?  
**BLACK ART**

アートを買うなら  
**OIL**  
by 美術手帖  
ARTWORKS

内海聖史  
色彩の下 2021-76  
¥1,034,000

白田一馬  
Smart City  
SOLD OUT

小見山峻  
NTZ-014  
¥66,000

児玉麻緒  
light falls  
¥258,500

もっと作品を探す

たった1時間の賞問に答えるだけ  
kkan.vbest.jp  
8割肝表給付金の対象者か判断用に最大3,600万円を申請します。

広告